

醍醐事務所にて
定期巡回のクローバー

介護・医療連携推進会議録

(1) クローバー挨拶、構成員紹介(別紙：構成員名簿あり)

訪問介護事業所の倒産が相次ぎ、訪問介護事業所ゼロの自治体が 32 都道府県 107 町村存在している。784 件の倒産件数中 6 割以上が訪問介護事業所であった。(2024 年)

介護の魅力を伝えながら地域貢献活動が続けていきたいと考えている。

○醍醐事業所〔山科サテライト含む〕について

内、山科区	33名
伏見区醍醐	16名

相談内容として山科は伏見区や東山区から地理的に訪問しにくい、事業所が少ないという話や、以前に定期巡回をご利用いただいたことで「家に帰ることができた」「看取ることができた」「安心して退院後のサポートを受けることができ、その後滞在型の HH へ変更することができた」という事があり新規でご相談をいただいています。

人数や事業所数が増えるとなかなか連携を取りにくくなることもあるかと思いますが、弊社ではラインワークスやチャットワークの利用を始めていますが、包括支援センターや居宅、訪問看護間で何か工夫をされたりされていますか？地域の方からご意見をもらうような掲示板などあるのでしょうか？

（西村氏）個別にラインワークスを利用していたりするがごく少数。利用者さんに対しては SNS が使えれば効率的ではあると思うが、コミュニケーション不足になるデメリットもありトラブルに至るケースも良く聞く。効率ばかりを求めるのは難しいように感じる。

（山田氏）転倒を繰り返す利用者をどうやって支えれば良いかという悩みはある。訪看も行ける時は行くが体格の大きい人だと困難だったりする。転倒を繰り返し骨折し入院すればまた ADL が落ちてしまう。定期巡回の利用をケアマネに勧めたりするが単位的な問題があったり、リハビリが入れられない（週一回程度の訪問になる単位的な制限）といった課題が生じてしまう。国が根本的な制度を含めてしっかり検討して欲しいと思う。

（川内氏）事業者との連携、事業者と家族との連携について、ラインワークスが増えてきている印象はある。タイムリーに見れる良さ、休みの時に見てしまう人・見ない人、すぐ送ってしまうから送られてくる内容について応えるのかどうなのか、どの人がどのツールを使ってやりとりしているのか複雑になってしまう事など課題はあるが、以前に比べると便利にはなっていると思う。

社協とのやり取りについては、包括は基本電話、居宅は LINE ワークスでグループを利用しているが、事業所によって違うツールしか利用していなかったり、電話しか対応できなかったりするので、コピーして貼り付けて別途送ったりという事をしている。

（斎藤氏）個別の利用者との LINE は繋いでいない関係各機関に限って希望される方とは SNS でやりとりしている。

（3）自己評価・外部評価について（別紙あり）

各項目について解説。

セキュリティについては昔は台帳の管理くらいで良かったが電子機器で持ち出す事も増えてきた中で、パスワードの設定の徹底、事業所や書庫の施錠の徹底が重要。

各コメント記入頂き、回収に伺う前にご連絡差し上げる予定。

※データでの送付希望…西村氏、山田氏

（4）周知活動について（別紙有り）

●毎月報酬と山科を各 1 日ずつ居宅や病院の地域連携室、包括、訪看などを訪問し周知活動を行った。

定期巡回の事業所は認可を受けているが地域提供をしている事業所は大変少なく地域介護を支える上では地域提供を行う定期巡回の事業所が増えることは弊社としては喜ばしいこ

とだと感じている。

実際のところ醍醐地区での定期巡回サービスの地域提供は増えているのでしょうか？

（川内氏）折々で話に来られるが、依頼しているという事はない。

（山田氏）幾つかの定期巡回から少し話を聞く事がある。

●醍醐小学区社会福祉協議会に参加

毎月の社協の役員会に参加。11月8日の敬寿会には職員も参加する予定。

●TUMUGI プロジェクト・・・継続して行っている。9月19日には大阪万博にも展示と裂き織の体験会を実施した。10月7日にはヴィラ端山デイサービスセンターにお邪魔し裂き織の布を提供。今後デイのご利用者に手伝っていただくこととなる。

ご参加、ご協力いただいている松井様、高田様、斎藤様お話しいただけますでしょうか？

（松井氏）社協さんの声掛けでヴィラ端山さんに訪問して実施することが出来た。細かい説明をしなくても手を動かして始められる。裂き織の持つ可能性の豊かさを感じている。

（高田氏）私が楽しいから参加させてもらっている。単純な作業だが、使わなくなった布を使って作品作りが出来るのがとても良いと思っている。

●池田東学区「すこやか学級」参加。偶数月に参加

地域活動において求められていることはどういったことか？どうすれば地域で、ご自宅で困っておられたり、孤独でおられたり、関わりを持ちたいが持てない方達を見つけ出すことが出来るのか？（一人と孤独は違う、という観点でも考えてみたい）

活動がされていても「来ることが出来ない」、こんな思いを持っていても「発信することが出来ない」といった課題を感じる。

・皆様に意見をお願いします。西村様、内海様、三好様、斎藤様地域でのご意見をいただければ…

（西村氏）京都市は他の自治体と比べて条例を積極的に打ち出している。ケアラーも支援の対象者として捉えないといけないという視点で明文化したということは画期的な事。京都市はこれからそれらの方々も支えていく活動にも力を入れていくのではないかと思います。（包括広報「だいが日和」より）

「来る方法がない」…どこかの誰かが「移動出来る手段」を提供出来れば解決すると思う。誰かの少しの協力を得られていくように「こんな手助けが欲しい」「こんな手助けが出来る」双方の発信を続けていく事が大事。

（三好氏）垣根越しに少しやり取りする、そういう雰囲気が地域にはあり、そういう様子を度々見かけるように思う。

（高田氏）地域によってそれは違いがあると思う。

(西村氏) 近所の人の情報をちらっと気にかけてみる、そういう役割が老人福祉委員のとして十分だと感じている。目を皿のようにして見ている、というのも監視社会のようで少し違うようにも思う。

(山田氏) 医療者なら受け入れてくれる、という方は多い。看護師がキーになって引き合わせる役割を担う事は多い。嫌がられても関わり続けることが大事だと思っている。

(斎藤氏) 何かしたいと思っておられる方と関わる事が主。そういう方々の入り口となることが役割だと思っている。しかし繋げられる活動、選択肢がたくさんあるわけではない事が課題感を持っている。先日のヴィラ端山での活動もその入門講座であった。ボランティア活動も希望される方は多いが、継続することが難しかったりする。色んな繋がり関わりを持って、緩やかに継続し、自主性自発性に繋がれると継続的な活動となり、各々の新たな役割創出に繋がっていくのではないかと考えている。

(山田氏) ぜひチラシなど出来れば提供して欲しい。

松井氏より

第三土曜日は包括の場所を借りてレインボーカフェの活動をさせてもらっているのも、ぜひご参加を。

次回 R8 年度第 1 回 介護・医療連携推進会議 : 令和 8 年 4 月に予定してお

ります。ご協力をお願いいたします。

以上